

19. 先天性筋性斜頸に就いて

(名市大) 水野潤二, 阪井邦男, 山岸敏子

先天性筋性斜頸の本態, 並びに其の發生機轉に關しては古來幾多の説があるが, 尙お全く解明されていないのが現況である。

偶々吾が教室に於て最近経験せる骨盤位分娩例にて斜頸を來せるもの意外に多いのに驚き, 調査を開始した。

本産婦人科學教室及び本整形外科に於ける統計より

1) 骨盤位分娩兒の約30%に斜頸が見られ, 2) 骨盤位分娩兒には頭位分娩兒に於けるより約30倍の頻度に, 先天性筋性斜頸が見られる, という結果を得た。

近時は先天性筋性斜頸の發生機轉として, 子宮内及び産道に於ける壓迫が, 其の重要な要因と考えられている様であるが, 我々は此れ等を検討しつつ其の原因究明を志した。即ち, 妊娠時子宮内に於ける胎兒姿勢及び骨盤位娩出時に於ける胎兒姿勢を, レントゲン像に依り把握すると共に, 胸鎖乳様筋, 所屬血管神經を露出せる兒をして該姿勢を把らせ, 子宮内に於ける壓迫, 産道内通過時の壓迫, 受傷の可能性を検討した。

尙お, 骨盤位にして斜頸を發生せる兒にも生下時既に兒頭, 顔面或は耳介の左右不均齊が見られる事に著目, 之より子宮内に於ける胎兒姿勢を推察し, 該變形の由來と斜頸發生との關係を追求した。

20. 新産兒幽門痙攣症の新知見に就いて

(小樽市) 本 仙一郎

新産兒幽門痙攣症は産科及び小兒科領域に於て, 稀に遭遇する疾患なるも此の本態は未だ定説なく, 従て其治療も一定を見ない。余は最近本症4例を経験し, 何れも結腸機能不全を伴い, 之を調整する事により治癒せしめ得た, よつて新産兒幽門痙攣症發生機轉に結腸機能不全が關與する新知見を發表し, 該方面研究發展の一資としたい。余の所謂結腸機能判定法とは2% 42°C 高温高張食鹽水をイルリガーートルにより2米高さより徐々に, 肛門より直腸に注腸せしめ, これにより直腸が急激に擴張便意を催すに至る直腸の収容量によつて判定されるものにして, 正常に於ける直腸収容量は膀胱収容量と同様年齢に應じ一定にして, 新産兒幽門痙攣症の際には, この直腸収容量は70cc以上を示し, 正常の数倍以上を有し, 結腸弛緩を物語り, 輕快すると共に正常に復し, 是に比例して吐乳回数が減少し輕快せしめ得た。4例共に吐乳を主訴とし, 從來の治療法により輕快を見なかつたものである。

よつて余は新産兒幽門痙攣症は從來留意せられなかつた結腸機能不全が認められ, 幽門に對し何等加療せず本注腸療法のみにより治癒せる事實より, 本症發生に結腸機能不全の關與を強調したい。尙お結腸機能不全と余が名附けて居るのは結腸機能失調に基づく機能的腸疾患, 例えばS字結腸移動症, ヒルシュスプルング氏病, 移動盲腸症の一部等, 便秘を伴う疾患群を假稱したものである。且つ結腸機能不全が新産兒に來り易い事は, 大正末期に弘氏(現北大小兒科學教授)が東大及び東京濱田病院に於ける廣範な研究があり, 余も本注腸法により確めた。終りに本注腸法の藥理機轉に就き言及せんとす。

21. Rh 因子に依る新産兒赤芽細胞症の3例と其の豫後に就いて

(日赤中央) 小川猛洋, 塩津英晤

第1例 血液型 母 OcdE 父 BcdE 子 OcDE

5回正常分娩, II 子は健存他は凡て生後3~15日にて何れも重症黄疸にて死亡す。2回人工流産1回自然流産した。Rh 抗體價は妊娠前1ヵ月1024, 妊娠4ヵ月2048, 妊娠6ヵ月512, 妊娠8ヵ月1024, 妊娠10ヵ月2048, 分娩後3日1024, 分娩後7ヵ月(人工流産3ヵ月卵管結紮)2048, 15ヵ月10日2048, 25ヵ月10日1024である。新産兒赤芽細胞は有核細胞200に對し29, 交換輸血200cc 3日目死亡した, 妊娠中, 胎動, 心音は著明であつた。

第2例 血液型 母 A.BcdE (29歳), 父 BCDe, 子 BCDe (汎發性胎兒水腫, 死産)

5回經産3回正常分娩, I 子は生後6ヵ月死亡, 他は何れも重症黄疸にて3日目死亡, 3回目, 5回目は死産す, Rh 抗體價は妊娠3ヵ月128, 妊娠5ヵ月1028, 妊娠7ヵ月1023, 妊娠9ヵ月512, 初妊娠10ヵ月初64, 妊娠10ヵ月終32, 分娩後3ヵ月20日2048, 9ヵ月20日128である。汎發性水腫の胎兒を死産した。赤芽細胞は有核細胞200に對し157である。妊娠9ヵ月末より, 胎動の微弱となつたことを訴え, 心音も著明でなかつた。

第3例 血液型 母 A, cde (34歳), 父 A, CDE, 子 ACDe (交換輸血にて健存)

5回主産I子は健存, II, III, IV 子は凡て重症黄疸にて3日目死亡した。V 子は交換輸血にて健存す, Rh 抗體價は, 妊娠4ヵ月32, 妊娠5ヵ月512, 妊娠7ヵ月1024, 妊娠8ヵ月512, 妊娠10ヵ月256, 分娩後1日256, 80日128である。赤芽細胞は有核細胞200に對し44であつた。交換輸血500ccにて健存す, 妊娠中胎動心音は常に著明であつた。

以上3例より Rh 抗體價は, 一般に妊娠5ヵ月頃より